

第10回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表

計算書類の個別注記表

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

パーソルホールディングス株式会社

(旧会社名 テンプホールディングス株式会社)

連結計算書類の「連結注記表」及び計算書類の「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.persol-group.co.jp/>) に掲載することにより株主の皆様提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

・連結子会社の数 177社

・主要な連結子会社の名称

パーソルテンプスタッフ(株)

パーソルキャリア(株)

株式取得に伴い、Programmed Maintenance Services Limited及び同社子会社89社を連結の範囲に含めております。

② 非連結子会社の状況

該当事項はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

・持分法適用の関連会社の数 10社

・主要な関連会社の名称

(株)イー・スタッフィング

(株)ベネッセiキャリア

(1)①株式取得に伴い、Atlas Programmed Marine Holdings Pty Limited他7社を持分法適用の範囲に含めております。

② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

(株)ビーナス・テクノロジーズ

天仕創人材諮詢（上海）有限公司

（持分法の適用範囲から除いた理由）

非連結子会社2社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

以下の主要な連結子会社の決算日は12月31日であり、連結計算書類の作成に当たっては、同決算日現在の計算書類を使用しております。ただし、1月1日から、連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

Persol Process & Technology Vietnam co., ltd.

Capita Pte. Ltd.

Kelly Services (Singapore) Pte. Ltd.

Kelly Services (Malaysia) Sdn. Bhd.

Kelly Services India Pvt. Ltd.

Kelly Services Australia Pty. Ltd.

Kelly Services New Zealand Pty. Ltd.

Programmed Maintenance Services Limited

Programmed Health Professionals Pty Ltd

Programmed Integrated Workforce Limited

Programmed Skilled Workforce Limited

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

・時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

・時価のないもの……………移動平均法による原価法を採用しております。

デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ……………時価法を採用しております。

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

・有形固定資産……………当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

・無形固定資産……………定額法を採用しております。なお、商標権については20年、海外連結子会社において耐用年数が確定できないものについては非償却としております。自社利用のソフトウェアについては即時償却または社内における利用可能期間（2～5年）で償却しております。

・リース資産……………リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

- ・ 貸倒引当金……………売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、当社及び連結子会社は、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ・ 賞与引当金……………従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。
- ・ 役員賞与引当金……………役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。
- ・ 株式給付引当金……………株式交付規程に基づく当社及び当社グループ子会社の従業員への当社株式の交付に備えるため、連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- ・ 役員株式給付引当金……………株式交付規程に基づく当社取締役及び当社執行役員への当社株式の交付に備えるため、連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

④ 退職給付に係る会計処理の方法

i) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

ii) 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用については、発生年度に一括費用処理しております。

iii) 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ 重要なヘッジ会計の方法

i) 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利通貨スワップについては一体処理(特例処理、振当処理)によっております。

ii) ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段……………金利通貨スワップ

ヘッジ対象……………長期借入金

b. ヘッジ手段……………為替予約

ヘッジ対象……………外貨建予定取引

iii) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスク及び為替変動リスクを低減することを目的として金利通貨スワップ取引を行っております。外貨建予定取引については、対象となる取引に関する外貨ベースでの予定取引額に対して為替予約を行っております。短期的な売買差益の獲得や、投

機を目的とするデリバティブ取引は行わない方針であります。

iv) ヘッジ有効性評価の方法

借入金については、リスク管理方針に従って、金利通貨スワップを一体処理しているため有効性の評価を省略しております。外貨建予定取引の為替リスクヘッジについては、取引すべてが将来の購入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため、有効性の評価を省略しております。

⑥ のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、5～20年間の定額法により償却を行っております。ただし、金額に重要性が乏しい場合には、発生時にその全額を償却しております。

⑦ 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

⑧ その他連結計算書類作成のための重要な事項

転換社債型新株予約権付社債の処理方法(発行者側)

社債の対価部分と新株予約権の対価部分を区別せず、普通社債の発行に準じて処理しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(連結貸借対照表)

前連結会計年度まで「流動資産」の「その他」に表示しておりました「仕掛品」は、金額的重要性が増加したため、当連結会計年度より「流動資産」に独立掲記しております。

前連結会計年度まで「投資その他の資産」に独立掲記しておりました「差入保証金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より、「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しております。

前連結会計年度まで「固定負債」に独立掲記しておりました「長期未払金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より、「固定負債」の「その他」に含めて表示しております。

3. 追加情報に関する注記

(1) 当社取締役及び当社執行役員に対する株式報酬制度 (BIP信託①)

当社は、平成29年6月の定時株主総会決議に基づき、平成29年8月より、当社グループの中長期的な会社業績及び企業価値の向上に対するインセンティブ付与を目的として、当社取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)及び当社執行役員(以下「取締役等」という。)を対象に、信託を活用した業績連動型株式報酬制度(以下「本制度」とい

う。)を導入いたしました。

① 制度の概要

本制度は、役員報酬BIP (Board Incentive Plan) 信託 (以下「BIP信託」という。) と称される仕組みを採用しております。BIP信託とは、欧米の業績連動型株式報酬 (Performance Share) 制度及び譲渡制限付株式報酬 (Restricted Stock) 制度と同様に、役位や経営計画等の目標達成度等に応じて、当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭 (以下「当社株式等」という。) を取締役等に、原則として退任後に交付又は給付する制度であります。なお、後述のグループ子会社の取締役に対してもBIP信託の仕組みを採用した株式交付制度の導入を決議しておりますが、当社取締役等を対象とする制度はBIP信託①、グループ子会社の取締役を対象とする制度はBIP信託②として、それぞれ分けて管理します。

② 信託が保有する自己株式

信託が保有する当社株式を、信託における帳簿価額 (付随費用の金額を除く。) により、純資産の部に自己株式として計上しております。BIP信託①が保有する当連結会計年度における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、647百万円、300,072株であります。

(2) 当社グループ子会社の取締役、並びに当社及び当社グループ子会社の幹部社員に対する株式交付制度 (BIP信託②及びESOP信託)

当社は、平成29年8月より、当社グループの中長期的な会社業績及び企業価値の向上に対するインセンティブ付与を目的として、当社グループ子会社の取締役、並びに当社及び当社グループ子会社の幹部社員 (以下「グループ経営幹部等」という。) を対象に、信託を活用して当社株式を交付する制度 (以下「本制度」という。) を導入いたしました。

①制度の概要

グループ経営幹部等のうち、当社グループ子会社の取締役を対象とした本制度は、(1)と同様にBIP信託と称される仕組みを採用しております。また、当社及び当社グループ子会社の幹部社員を対象とした制度は、株式付与ESOP (Employee Stock Ownership Plan) 信託 (以下「ESOP信託」という。) と称される仕組みを採用しております。両制度とも、当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭 (以下「当社株式等」という。) をグループ経営幹部等に対して、原則として退任・退職後に交付及び給付します。

②信託が保有する自己株式

信託が保有する当社株式を、信託における帳簿価額 (付随費用の金額を除く。) により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度における当該自己株式の

帳簿価額及び株式数は、BIP信託②が150百万円、69,838株、ESOP信託が473百万円、219,661株であります。

4. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 9,220百万円

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株 式 の 種 類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
発行済株式				
普通株式	236,673千株	4千株	－千株	236,677千株
合計	236,673千株	4千株	－千株	236,677千株
自己株式				
普通株式	2,838千株	591千株	23千株	3,406千株
合計	2,838千株	591千株	23千株	3,406千株

- (注) 1. 普通株式の発行済株式の総数の増加4千株は、転換社債型新株予約権付社債の権利行使による増加4千株であります。
2. 普通株式の自己株式数の増加591千株は、役員報酬BIP信託による当社株式の取得による増加371千株、株式付与ESOP信託による当社株式の取得による増加220千株及び単元未満株式の買取りによる増加であります。
3. 普通株式の自己株式数の減少は、主に第三者割当による自己株式の処分によるものであります。
4. 当連結会計年度末の自己株式数には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式369千株及び株式付与ESOP信託が保有する自社の株式219千株が含まれております。

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

決 議	株 式 の 種 類	配 当 金 の 総 額 (百万円)	1株当たり配当額(円)	基 準 日	効 力 発 生 日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,104	9	平成29年3月31日	平成29年6月28日
平成29年11月13日 取締役会	普通株式	2,104	9	平成29年9月30日	平成29年12月5日

(注) 平成29年11月13日取締役会決議に基づく「配当金の総額」には、役員報酬BIP信託口及び株式付与ESOP信託口が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

次のとおり、提案をしております。

決議予定	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,338	利益剰余金	10	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(注) 平成30年6月26日定時株主総会決議予定に基づく「配当金の総額」には、役員報酬BIP信託口及び株式付与ESOP信託口が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金及び投資資金についてはまず営業キャッシュ・フローで獲得した資金を投入し、不足分について必要な資金を主に銀行借入及び社債発行等により調達しております。

一時的な余資は安全性の高い金融商品で運用しております。

デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金、未払法人税等及び未払消費税等は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金の使途は運転資金及び投資資金であります。このうち一部は、外貨建てであるため為替相場の変動リスク及び金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利通貨スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建予定取引に係る将来の為替相場の変動リスクを抑制する目的で先物為替予約取引を、借入金に係る将来の為替相場の変動リスク及び金利変動リスクを抑制する目的で金利通貨スワップを行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項、(4)会計方針に関する事項⑤重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

i) 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

債権管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にもモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

ii) 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、外貨建予定取引に係る為替相場の変動リスクを抑制する目的で先物為替予約取引を、借入金に係る為替相場の変動リスク及び金利変動リスクを抑制するために金利通貨スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、また、市況や発行体との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引の目的、内容及び決裁基準等を定めた社内ルールに従い、所定の決裁担当者の承認を得て行っております。

iii) 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理
各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注）2. 参照）。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	89,624	89,624	-
(2) 受取手形及び売掛金	120,254	120,254	-
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	8,152	8,152	-
資産計	218,032	218,032	-
(4) 短期借入金	85,288	85,288	-
(5) 未払金	67,409	67,409	-
(6) 未払法人税等	8,905	8,905	-
(7) 未払消費税等	13,796	13,796	-
(8) 長期借入金（※）	20,353	20,369	16
負債計	195,754	195,770	16

(※) 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(4) 短期借入金、(5) 未払金、(6) 未払法人税等、及び(7) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8) 長期借入金

長期借入金のうち、固定金利及び金利通貨スワップの一体処理（特例処理、振当処理）によるものは、元金利の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

金利通貨スワップの一体処理（特例処理、振当処理）によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額4,390百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

7. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産 | 623円90銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 33円28銭 |

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

9. その他の注記

(減損損失に関する注記)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
—	—	のれん (注) 1	5,653
—	—	のれん (注) 2	6,852
連結子会社パーソルキャリア(株)の事業用資産	—	商標権 (注) 2	754
連結子会社パーソルキャリア(株)の事業用資産	東京都千代田区	ソフトウェア等 (注) 2	1,012
その他	—	—	7

当社グループの資産のグルーピング方法は、管理会計上の区分に基づいて事業用資産をグルーピングしており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングしております。

(注) 1 連結子会社であるCapita Pte. Ltd.、First Alliances Co., Ltd.、Kelly Services (Singapore) Pte. Ltd.、及びKelly Services (India) Pvt. Ltd.の株式取得時にのれんを計上いたしましたが、想定していた収益が見込めなくなったことにより帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを8.69～14.07%で割引いて算定しております。

(注) 2 連結子会社であるパーソルキャリア(株)のパート・アルバイト事業にかかる固定資産につきまして、当初想定していた収益を見込めなくなったことにより帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないため、回収可能価額をゼロとみなしております。

(企業結合等に関する注記)

取得による企業結合

Programmed Maintenance Services Limited株式の取得

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称 Programmed Maintenance Services Limited (以下「プログラムド社」という。) 及び同社子会社89社

事業の内容 人材紹介、人材派遣、設備・施設メンテナンス

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は海外において、平成22年に米国の大手人材サービス企業Kelly Services Inc.との戦略的業務提携を締結し、平成24年には両社の北アジア事業における合併事業を開始しました。さらに平成28年にはアジア・パシフィック全域に合併事業を拡大しており、現在は人材派遣、人材紹介、人事労務コンサルティングを中心に、12の国と地域（中国、香港、韓国、台湾、シンガポール、ベトナム、インドネシア、マレーシア、タイ、インド、ニュージーランド、オーストラリア）にて事業を展開しております。

一方プログラムド社は、昭和26年（1951年）に塗装サービス企業として創業、豪州人材サービス大手との経営統合等を経て、現在は人材派遣、人材紹介を主軸とする人材系サービスと、商業施設・学校などの施設管理、塗装・用地整備、鉱山施設メンテナンス事業を主軸とする大手人材サービス・メンテナンス会社であります。

今後、アジア・パシフィック地域において、当社が当該地域で培ってきたノウハウや顧客基盤とプログラムド社が保有する豪州等における規模・実績ともに強固な事業基盤を組み合わせることで、更なる事業拡大を目指し、本件株式取得を行うことといたしました。

(3) 企業結合日

平成29年10月27日（みなし取得日 平成29年9月30日）

(4) 企業結合の法的形式及び結合後企業の名称

企業結合の法的形式 現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称 企業結合後の名称変更はありません。

(5) 取得した議決権比率

100%

(6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が豪州子会社を通じて、現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結計算書類に含まれている被取得企業の業績の期間

被取得企業の決算日は当社グループと3ヶ月異なっております。また、企業結合のみなし取得日を平成29年9月30日としているため、当連結会計年度には平成29年10月1日から平成29年12月31日までの業績を含んでおります。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	66,075百万円
取得原価		66,075百万円

(注) 実施した為替予約のレートで換算した金額です。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等 838百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

52,583百万円

なお、のれん金額は、当連結会計年度末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

主として、当社グループと被取得企業が有するインフラ、ブランド力の相互活用により、有益なビジネスシナジーの創出が可能になるものと判断し期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

10及び20年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	43,848百万円
固定資産	30,956
資産合計	<u>74,804</u>
流動負債	46,540
固定負債	14,472
負債合計	<u>61,012</u>

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 子会社及び関連会社株式……移動平均法による原価法を採用しております。
 - ② その他有価証券
時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。
時価のないもの……………移動平均法による原価法を採用しております。
- デリバティブの評価基準及び評価方法
デリバティブ……………時価法を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……………定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

無形固定資産……………定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金……………個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金……………従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。
- ③ 役員賞与引当金……………役員に対する賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額を計上することとしております。
- ④ 株式給付引当金……………株式交付規程に基づく当社従業員への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- ⑤ 役員株式給付引当金……………株式交付規程に基づく当社取締役及び当社執行役員への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

- ① 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利通貨スワップについては一体処理(特例処理、振当処理)によっております。

- ② ヘッジ手段とヘッジ対象
 - a. ヘッジ手段……………金利通貨スワップ
ヘッジ対象……………長期借入金
 - b. ヘッジ手段……………為替予約
ヘッジ対象……………外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

借入金の金利変動リスク及び為替変動リスクを低減することを目的として金利通貨スワップ取引を行っております。外貨建予定取引については、対象となる取引に関する外貨ベースでの予定取引額に対して為替予約を行っております。短期的な売買差益の獲得や、投機を目的とするデリバティブ取引は行わない方針であります。

④ ヘッジ有効性評価の方法

借入金については、リスク管理方針に従って、金利通貨スワップを一体処理しているため有効性の評価を省略しております。外貨建予定取引の為替リスクヘッジについては、取引すべてが将来の購入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため、有効性の評価を省略しております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる事項

消費税等の会計処理……………税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度まで「営業外費用」の「その他」に表示しておりました「為替差損」は、金額的重要性が増加したため、当事業年度より、「営業外費用」に独立掲記しております。

3. 追加情報に関する注記

(1) 当社取締役及び当社執行役員に対する株式報酬制度（BIP信託①）

当社は、平成29年6月の定時株主総会決議に基づき、平成29年8月より、当社グループの中長期的な会社業績及び企業価値の向上に対するインセンティブ付与を目的として、当社取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。）及び当社執行役員（以下「取締役等」という。）を対象に、信託を活用した業績連動型株式報酬制度（以下「本制度」という。）を導入いたしました。

① 制度の概要

本制度は、役員報酬BIP（Board Incentive Plan）信託（以下「BIP信託」という。）と称される仕組みを採用しております。BIP信託とは、欧米の業績連動型株式報酬（Performance Share）制度及び譲渡制限付株式報酬（Restricted Stock）制度と同様

に、役位や経営計画等の目標達成度等に応じて、当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭（以下「当社株式等」という。）を取締役等に、原則として退任後に交付又は給付する制度であります。なお、後述のグループ子会社の取締役に対してもBIP信託の仕組みを採用した株式交付制度の導入を決議しておりますが、当社取締役等を対象とする制度はBIP信託①、グループ子会社の取締役を対象とする制度はBIP信託②として、それぞれ分けて管理します。

② 信託が保有する自己株式

信託が保有する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。BIP信託①が保有する当事業年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、647百万円、300,072株であります。

(2) 当社グループ子会社の取締役、並びに当社及び当社グループ子会社の幹部社員に対する株式交付制度(BIP信託②及びESOP信託)

当社は、平成29年8月より、当社グループの中長期的な会社業績及び企業価値の向上に対するインセンティブ付与を目的として、当社グループ子会社の取締役、並びに当社及び当社グループ子会社の幹部社員（以下「グループ経営幹部等」という。）を対象に、信託を活用して当社株式を交付する制度（以下「本制度」という。）を導入いたしました。

①制度の概要

グループ経営幹部等のうち、当社グループ子会社の取締役を対象とした本制度は、(1)と同様にBIP信託と称される仕組みを採用しております。また、当社及び当社グループ子会社の幹部社員を対象とした制度は、株式付与ESOP（Employee Stock Ownership Plan）信託（以下「ESOP信託」という。）と称される仕組みを採用しております。両制度とも、当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭（以下「当社株式等」という。）をグループ経営幹部等に対して、原則として退任・退職後に交付及び給付します。

②信託が保有する自己株式

信託が保有する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当事業年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、BIP信託②が150百万円、69,838株、ESOP信託が473百万円、219,661株であります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 2,328百万円

(2) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

① 短期金銭債権	5,559百万円
② 短期金銭債務	59,674百万円
③ 長期金銭債権	31,439百万円
④ 長期金銭債務	645百万円

(3) 債務保証

次の関係会社について、金融機関からの借入に関し債務保証を行っております。

Programmed Maintenance Services Limited 27,432百万円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引

営業収益 30,496百万円

営業費用 1,823百万円

営業取引以外の取引高 648百万円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
自己株式				
普通株式	2,838	591	23	3,406
合計	2,838	591	23	3,406

(注) 1. 普通株式の自己株式数の増加591千株は、役員報酬BIP信託による当社株式の取得による増加371千株、株式付与ESOP信託による当社株式の取得による増加220千株及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式数の減少は、主に第三者割当による自己株式の処分によるものであります。

3. 当事業年度末の自己株式数には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式369千株及び株式付与ESOP信託が保有する自社の株式219千株が含まれております。

7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産		(百万円)
未払事業税否認額		24
賞与引当金		75
貸倒引当金		243
株式給付引当金		27
未払費用否認額		17
関係会社株式評価損		1,868
税務上の繰延資産		2
資産除去債務		400
減損損失		13
前受収益		20
税務上の繰越欠損金		1,082
その他		4
繰延税金資産	小計	3,780
評価性引当額		△3,780
繰延税金資産	計	—
繰延税金負債		
前払費用		△4
その他有価証券評価差額金		△812
繰延税金負債	計	△816
繰延税金負債の純額		△816

(注) 繰延税金負債の純額は、貸借対照表の次の項目に含まれております。

流動負債—繰延税金負債	△4
固定負債—繰延税金負債	△812

8. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額	科目	期 残	未 高
子会社	パーソルテンプスタッフ㈱	所有 直接100%	役員の兼任 資金の貸付 資金の借入 管理業務の受託	資金の返済 (注) 1	426	—	—	—
				利息の支払 (注) 2	10	—	—	—
				資金の貸付 (注) 1	1,080	CMS預け金	1,080	—
				利息の受取 (注) 2	11	—	—	—
				管理業務の 受託 (注) 3	3,338	売掛金	301	—
子会社	パーソルキャリア㈱	所有 直接100%	役員の兼任 資金の借入 管理業務の受託	資金の借入 (注) 1	18,028	CMS預り金	18,028	—
				利息の支払 (注) 2	28	—	—	—
				管理業務の 受託 (注) 3	3,374	売掛金	300	—
子会社	パーソルR&D㈱	所有 直接100%	役員の兼任 資金の借入	資金の借入 (注) 1	1,571	CMS預り金	3,958	—
				利息の支払 (注) 2	14	—	—	—
子会社	パーソルプロセス& テクノロジー㈱ (注) 8	所有 直接100%	役員の兼任 システム業務 の委託	システム業務の 委託 (注) 3	885	未払金	229	—
子会社	パーソルテクノロ ジースタッフ㈱	所有 間接100%	役員の兼任 資金の借入	資金の借入 (注) 1	1,504	CMS預り金	4,531	—
				利息の支払 (注) 2	17	—	—	—
子会社	㈱日本アイデックス	所有 間接100%	資金の借入	資金の返済 (注) 1	98	CMS預り金	2,790	—
				利息の支払 (注) 2	13	—	—	—

種 類	会 社 等 の 名 称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関 係	取 引 の 内 容	取引金額	科 目	期 末 残 高
子会社	テンプスタッフ・フ ロス(株)	所 有 間 接 90%	資金の借入	資金の借入 (注) 1	442	CMS預り金	2,731
				利息の支払 (注) 2	11	—	—
子会社	パナソニック エク セルスタッフ(株)	所 有 間 接 66.6%	役員の兼任 資金の借入	資金の借入 (注) 1	1,378	CMS預り金	4,497
				利息の支払 (注) 2	23	—	—
子会社	パナソニック エク セルプロダクツ(株)	所 有 間 接 66.6%	役員の兼任 資金の借入	資金の借入 (注) 1	1,738	CMS預り金	7,245
				利息の支払 (注) 2	31	—	—
子会社	PERSOL AUSTRALIA HOLDINGS PTY LTD	所 有 直 接 100%	役員の兼務 増資の引受	増資の引受 (注) 4	33,936	—	—
子会社	AUTALENT SOLUTIONS PTY LTD	所 有 間 接 100%	役員の兼任 資金の貸付	資金の貸付 (注) 1, 7	33,741	長期貸付金	31,439
				利息の受取 (注) 2, 7	350	未 収 利 息	151
子会社	Programmed Maintenance Services Limited	所 有 間 接 100%	役員の兼任 債務保証	債 務 保 証 (注) 5	27,432	—	—
				保証料の受取 (注) 6, 7	31	未 収 入 金	30

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 資金の貸付、借入及び返済の取引金額は当事業年度の純増減額を記載しております。

2. 約定金利は市場金利を勘案して決定しております。

3. 管理業務料及びシステム業務料の金額は、毎期交渉等の上、決定しております。

取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

4. 増資の引受は子会社が行った増資を当社が全額引き受けたものです。

5. 債務保証については、関係会社の金融機関からの借入に関し保証を行っているものであり、担保提供は受けておりません。

6. 保証料の受取については、市場金利をもとに協議の上決定しております。

7. 上記金額のうち、取引金額には為替差損益は含まれておらず、期末残高には換算差損益が含まれております。

8. 上記取引金額には、(株)IBS Global Bridgeとの取引高が含まれております。(株)IBS Global Bridgeは、平成29年7月1日付で、パーソルプロセス&テクノロジー(株)に吸収合併されております。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産	409円46銭
(2) 1株当たり当期純利益	61円15銭

10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。